

川津サラ飯事情

11時を過ぎると昼飯のことが頭をよぎります。「濃厚スープの豚骨ラーメン」「涙の激辛カレー」「お手軽うどん」「ちよっと奮発して回転寿司」「んにくの効いた餃子」。私の頭の中を本日の昼飯候補が、賑やかに駆け巡ります。

他にもパスタ、ファミレス、定食屋などなど、たかが昼飯とは言え、これだけの選択肢がある川津とは、まことに幸せな地域だと、感謝せねばなりません。

これらのお店の一つに牛丼屋があります。牛丼屋といえは、安い、早い、ガッツリがウリで、若いサラリーマンや学生さんが主要なお客様でした。しかし最近はお老夫婦の微笑ましい食事風景が見られたり、ハイヒールの御嬢さんなど新タイプのお客さんの姿も見かけます。

ある時、ダークスーツの紳士が入店、私の向かいのカウンターに座りました。何と県の弁護士界の重鎮です。お互い会釈を交わしましたが、社会的地位もある先生までご利用だとは本当に驚きました。

時折、顔見知りの男性が独りで食事する姿を見かけます。挨拶を交わすと「いやー女房が突然、孫の守に行っちゃって…」と照れくさそうに、言い訳じみたお言葉。まるで独りで牛丼をつつくなど、男子の沽券に係わるかのような口ぶりです。男とは実に可愛い生き物だと思いつくづいいます。